

# おたつしや新聞



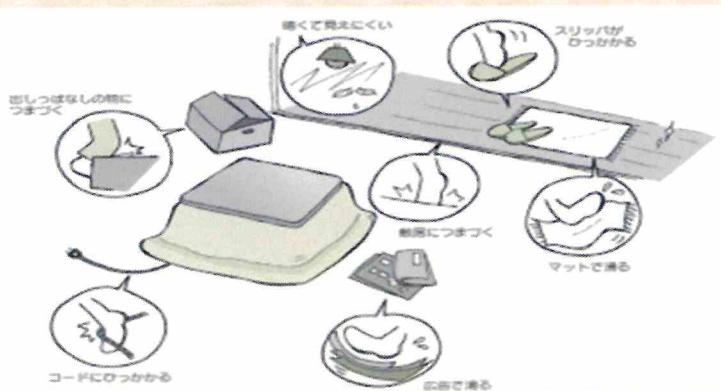
この新聞は、宝達志水病院をよく知って頂くため患者様や患者家族・当院を利用される関係者様や地域住民の皆さんに病院での取り組みを紹介するものです。各部署を持ち回りで紹介します。

初回はリハビリテーション科の通所リハビリテーション部（通所リハビリ）の取り組みについて紹介します。

通所リハビリ室は、エレベーターを上がって2階にあります。在宅療養中で要介護認定を受けリハビリが必要である方を対象に1日約10名の方が利用されています。リハビリ専門職の理学療法士が1名専属しており、利用者様の病状に合わせ、生活動作の機能維持・向上のために、機能訓練や日常生活動作練習・歩行練習などを行っています。また、一日利用の中で、リハビリだけでなく、脳トレや壁紙の製作を行い、他の利用者様と楽しめます。今年は、利用者様のご厚意もあり、テラスにミニトマトときゅうりを育てました。大きく育っていくミニトマトときゅうりに、皆様の笑顔がたくさんみられました。また、とてもうれしそうで満足され、生きがいを感じていらっしゃるようになります。今後も皆様の笑顔がたくさんみられるようスタッフ一同、支援していきます。

## 転倒予防のワンポイントアドバイス

### ◇家屋環境を整えましょう



転倒の原因に家の中の環境が影響しています。転倒し、骨折する方が多いので次のことに注意して自宅の環境を整えましょう。

- \*暗くて床で滑る。
- \*マットで滑る。
- \*コードにひっかかる。
- \*出しっぱなしのものにつまづくなど。
- \*スリッパがひっかかる。
- \*敷居でつまづく。
- \*広告の紙で滑る。

発行年月日  
2017年10月2日

発行人  
原 文香  
渡野 明代





# おたっしゃ新聞

第02号

平成29年12月1日発行

発行者：町立宝達志水病院

発行担当部署：看護部外来



## うがい・手洗い



マスク着用



## 十分な休息



## 予防の三原則

第2弾の宝達志水病院  
おたつしや新聞です！今  
回の発行部署は看護部の  
外来です。外来看護師は  
10人で構成されており個  
性あふれるメンバーばかり  
です。

私たちが目指す看護と  
してコミュニケーション  
を大切に、診療をスムー  
ズに行える環境を整え、  
患者様・ご家族様に安心  
して当院を受診できる環  
境を今後も造つていただき  
いと思っています。笑顔  
あふれる外来を目指して  
いきます。

## 症状チェックシート

1	周囲でのインフルエンザの流行
2	急激な高熱の発症
3	38℃以上の発熱
4	関節痛み/筋肉痛
5	倦怠感/疲労感
6	頭痛
7	咳/鼻水/くしゃみ
8	喉の炎症・痛み

\*インフルエンザかな?と思ったら早めに受診しましょう。

**Q 家族がインフルエンザにかかった時に気を付けることは?**

- \* インフルエンザを予防するにはどうするのか?
  - \* 予防接種を受ける
  - \* 栄養と休養を十分にとる
  - \* 休養を十分にとる
  - \* 人ごみを避ける
  - \* 適度な室温、湿度保つ(50~60%)
  - \* マスクを着用する
  - \* 手洗いとうがいをする

インフルエンザのQ&A



外來看護師



地域連携室

接遇アンケートにご協力頂きました患者様ありがとうございます。外来には定期受診の患者様や体調が悪くて受診される患者様もおられます。そのため初診や久しぶりに受診される患者様にはスムーズな診療がおこなえるようにならかじめ問診を行います。問診や症状により診察の順番が変わったり、すぐ処置できるように看護師の目の届くところで待機していました。だくという配慮をおこないます。

自宅で生活しながら感じた疑問や困っていること、不安を感じていることが来院された時に話しやすい雰囲気づくりや検査説明など落ち着いて聞いていただけるように配慮をおこなつてまいります。来院された際、患者様の多岐にわたる質問に応じることができるように、待合室などで患者様の顔色が悪そうな方がいなかチエックしながら診察室への声掛けをおこなうべきたいと思います。

外来スタッフ一同、患者様のご意見を真摯に受け止め、患者様に寄り添う姿勢を大切に住民の皆様が安心して来院していただけるよう努めいたします。

外來看護師長 安達智子

103B



# おたっしゃ新聞

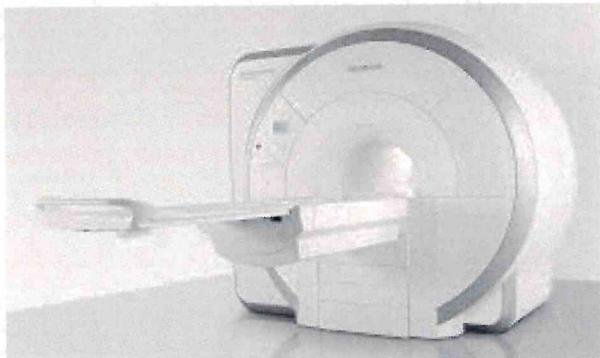
平成30年2月1日発行

発行者：町立宝達志水病院

担当部署：放射線部

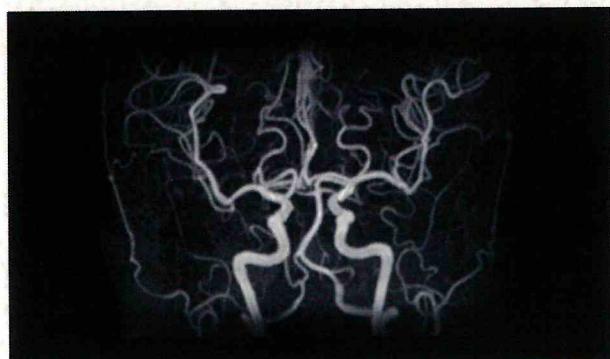
## 当院のMRI装置

MRIとはMagnetic Resonance Imagingの略語  
日本語では磁気共鳴画像と言います。



当院のMRI装置

MRAとはMRI装置を使用した血管撮像  
(MR Angiography)のことです。



頭部MRA

MRI装置は磁気の力を利用して撮影する画像診断装置です。当院のMRI装置はトンネル部分が147cmと短いので圧迫感が軽減し、撮影画像についても高画質での検査が可能ですが。X線検査のような放射線被曝は伴いません。しかし他の画像診断機器と比べると長い検査時間を必要とします。

当院では検査中にお好みの音楽を聴く等、リラックスして検査を受けることができます。  
目的に応じて優れた画像コントラストが得られ、骨や空気による影響がないため脳や脊髄などを鮮明に診断できます。縦・横・斜め方向の断面が得られるため理解がしやすく、また三次元の画像も得意です。造影剤を使わずに、あるいは最小限の造影剤量で大きな血管に関する情報が容易に得られます。

(MRA、MRアンギオグラフィ)

### 整形外科

頸椎症、胸椎・腰椎のヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄奇形、骨軟部腫瘍、関節の靭帯損傷、半月板損傷など

### 神経内科 脳神経外科

脳の腫瘍、脳血管性疾患、変性疾患、脳奇形、外傷、脳血管検査（脳ドックなど）

### 消化器内科・外科

肝・胆・脾の腫瘍性病変、胆道・脾管検査（MRCP）など



# MRIの疑問

みなさん MRI検査を受けたことはありますか？

MRI検査は狭いトンネルの中に長時間入り、ゴンゴン、ガンガンと工事現場のような音が常にしています。そして検査の時間も30分くらいかかることが大半です。「何でこんなにうるさいし、時間がかかるのだろう？」と多くの方が感じいらっしゃるのではないでしょうか。

今回はこのMRIのうるさい音と長い検査時間についてのお話です。

まず、なぜ検査中にうるさい音がするのでしょうか？

MRI検査は、強い磁場とラジオ波の作用により人体を構成している水分(水素原子)の情報を読み取って画像化するものです。

装置にはコイルが巻いてあり、そこに「電流」を流すと「磁場」と「磁力」が発生します。この磁力が装置のコイルを伸ばしたり縮めたりして振動させてしまうのです。この振動する音が大きな音となって聞こえます。これが音の原因です。

また、検査中は磁場を高速で何回も繰り返し発生させます。このため音も連続して聞こえてくるのです。

では次に、なぜ検査に長時間かかるのでしょうか？

MRI装置は前述の通り、人体の水分から情報を読み取り、得られた情報を何回も重ね合わせ画像化しています。読み取る情報は膨大であるため、時間がかかるのです。さらに撮影する部位によって撮影条件や撮影方向を変えて何種類も撮影します。このように、精度の高い画像を撮影するためには時間がかかるてしまうのです。

MRI検査は音もうるさく検査時間も長くかかりますが、現在の画像診断には欠かせない検査の一つになっています。

タバあい査 さ窓す測  
ツれりてに当い口 放射線部では、一般撮影、CT、骨密度  
フなまは従部 定、MRIなどの検査を行つてお待ちま  
まいす受事署では、診療放射線技師二名で  
まことがありまし トライに入れてお待ちください。  
でお声かけください。 近く前場のを合がお検

## 放射線部受付のご案内

